

# 「汎用スペイン語」の教育的応用

江澤 照 美

## Aplicaciones pedagógicas de “El español panhispanico”

Terumi EZAWA

### 1. はじめに

スペイン語は母語話者数やその使用域の広さから世界の言語の中でもメジャーな言語として知られているが、ある言語が世界の数ある言語の中で多数派であるという事実はその言語の学習動機になることが多いようで、GIDE (2012: 22-23) が日本の大学のスペイン語履修者を対象に実施したスペイン語教育改善のためのアンケート調査でも、スペイン語を選んだ一番の理由として計12の選択肢のうち最も多くの回答者が選んだ答えは「スペイン語は世界で最も話されている言語の一つだから」であった。筆者自身の学習動機も同様であったため、この回答結果に異論はない。筆者は中学生の時に世界の有力言語の一つとしてのスペイン語に興味を持ち、その後スペイン語を大学で専攻語学として学び始めた。スペイン語を専攻学科で学んだため、言語習得と共に講義などでスペイン語圏の文化や社会について比較的詳しく学ぶ機会を得た。各地域の言語バリエーションについて知るようになったのはさらに後のことであったが、スペイン語の奥深さを知り、より深い関心を持つに至った。スペイン語に限らずあらゆる言語が持つ地域バリエーションの豊かさは尊重し守られるべき文化的財産であるという考え方に筆者も賛同する。

しかし、共通語としてのスペイン語を近年の研究課題にするようになり、思い返してみれば筆者の興味を最初にそそり学習を始める動機を筆者に与えたのはスペイン語の多様性ではなくその対極にある共通性であった。そして、現在に至るまで外国語に興味がある者をスペイン語学習にいざなうために、おそらく世界中のどの国でもスペイン語教育に関わる関係者が好んで強調するのは世界の言語の中でのスペイン語の優位性であることに変

わりはない。また日本国内ではスペイン語圏出身の外国籍住民が増加した1990年代以降、言語コミュニケーション支援につながるスペイン語の使用機会の増加もスペイン語学習への誘い文句に加わった。

大学のオープンキャンパスなど新規学習者を増やす目的で行われるイベントではスペイン語の言語バリエーションへの言及がされないことが多いがそれも当然のことかもしれない。地域による言語バリエーションは一部の学習者の興味を将来的にとらえるかもしれないが、その多様さゆえに入門レベルの学習者には覚えることが多すぎて、スペイン語圏のすべての国に行く機会でもない限り積極的に覚える意味を見出せないと感じる学習者がいても不思議ではないだろう。

1990年代から現在に至るまでのスペイン語普及のための広報戦略について言えば、上述のように日本のELE教育界では外国籍住民との交流や言語支援を学習動機に結びつける動きが生じたという点がそれ以前の時代から変わったことであるが、同時期のスペインのELE教育界ではのちに他のスペイン語圏諸国にも波及する大きな変革があった。具体的にはネットの普及によりRAE, ASALEの連携が強化され、連携の成果としての著作物が世界中に迅速に公開されるようになった。また、1991年にスペイン語圏の言語と文化の普及を促進する目的で設立されたセルバンテス協会が世界の多くの国に支部を開設し、ELE教育や検定試験実施、文化活動に尽力してきたが、2001年のCEFR策定によりELE教育をとりまく状況はさらに大きく変わっていった。その詳細は江澤(2019)、同(2020)、同(2021)で多くを述べたので本稿では特に言及しないが、RAEとASALEが明確にした汎イスパニア主義の標榜<sup>1)</sup>とスペイン語圏各地域の言語・文化の多様性の両方を共に尊重する姿勢がその後のELE教育界に与えた影響は大きく、スペイン語圏全体に目配りしつつ圏内の言語や文化の多様性にも配慮したELE教材の新刊や改訂版の登場が今世紀に入って続いた。今回の考察ではRAEとの協力関係を初めて前面に打ち出した最新のELE教材を研究対象として分析に用いる。

筆者は数年来いわゆる「汎用スペイン語」を研究対象としてきたが、本稿はその教育的応用という最終目標に到達するための論考である。RAEとASALEの連携の産物と言える言語コーパスは従来から言語研究で多く活用されてきたが、今回とりあげるコーパス調査の成果を取り入れたELE教材の刊行やRAEのオンラインリソースを活用した有料サービスなど、

ELE 教育界にもさらに新しい動きが生じている。本稿ではこれらの分析を通じて、スペイン語圏の言語データの活用をこれまで以上に推進する新しい時代の ELE 教育や教材の可能性について論じる。

## 2. コーパスと ELE テキスト

本章ではまずスペイン語のコーパスやその研究の概要を簡単に紹介する。そのあと、RAE と ASALE の連携の成果である言語コーパスを ELE 教材として初めて活用したテキスト *Frecuencias* についても概要紹介のうちに同書の試みについて検証する。

### 2.1. スペイン語コーパス

本稿の主たる関心はスペイン語コーパスの教育的活用にあるため、本章で取り上げる Enclave RAE を除いてコーパスそのものの詳細な紹介や活用に関する考察はここではおこなわないが、RAE と ASALE の連携強化が多種多様なスペイン語テキストの電子データの充実に貢献したのは間違いはない。スペイン語学研究では RAE による CREA（現代スペイン語参照コーパス）や CORDE（スペイン語通時コーパス）が広く知られているが、その後2013年より CORPES XXI（21世紀スペイン語コーパス）が利用可能になった<sup>2)</sup>。その他 CDH（スペイン語歴史辞書コーパス）<sup>3)</sup>も加わり、これらは RAE のサイトの中で Banco de datos としてまとめられている<sup>4)</sup>。

RAE 以外のスペイン語コーパスとしてはアメリカの言語学者 Mark Davies 氏の Corpus del español も一定の評価を得ている<sup>5)</sup>。

また、上田博人、高垣敏博、Ruiz Tinoco の三氏を中心に1993年からスタートした<sup>6)</sup>Proyecto VARILEX（世界のスペイン語の語彙バリエーション計画）は、スペイン語圏の多くの研究者の協力を得てスペイン語圏全域の語彙分布を知る上で貴重な言語コーパスを生み出した。三氏による VARILEX の関連研究は数多いが、中でも上田編著（2020）は語彙の使用頻度の統計値が掲載されていたり、辞書専用のデータ検索システムがオンラインで利用できるなど<sup>7)</sup>コーパスの教育的活用の好例と言えよう。三氏はその後スペイン語圏の文法バリエーションを研究する VARIGRAMA という新たなプロジェクトも立ち上げている<sup>8)</sup>。

その他、Cruz Piñol（2019）には筆者が初めてその存在を知るコーパス

もいくつか紹介されていて、コーパスの教育的活用やその研究の進展ぶりが窺える。

## 2.2. 新時代の ELE テキスト

CEFR 策定 (2001年) やそれに続くセルバンテス協会の *Plan Curricular* 刊行 (2006–2007年) を契機として、ELE 教育用テキストの編集方針や内容の見直しがおこなわれ、改訂版や新版が相次いで刊行された。CEFR や *Plan Curricular* はけっして規範的な性格を持つわけではないが、現在のスペインの ELE 教材にとって無視できない指針として役だっていることは間違いない。

そして、2018年に CEFR 増補版<sup>9)</sup>が発表された。2001年版では簡潔な記述にとどめられていた仲介能力 (mediation) が詳細に定義づけられた。また、2001年版には存在しなかった複言語能力や複文化能力の能力記述文が登場し、A1 から C2 までの 6 レベルが 11 レベルに増加するなど、その改訂内容は増補より進化を思わせる。2018年版で新たに加わった内容はいずれ ELE 教材の改訂や新刊を促すことが予想される。

ただし、2020年以降に出版された 3 冊のスペインの ELE 教材 (*Aula Internacional Plus* (Difusión 社, 2020)<sup>10)</sup>, *Frecuencias* (Edinumen 社, 2020), *Nuevo Diverso Básico* (SGEL 社, 2021)) の入門レベルのテキストを概観する限り、CEFR 増補版の影響について特筆すべきものはないように思えた。なお、増補版のスペイン語訳は 2021年 10月 12日のスペインのナショナルデーに Centro Virtual Cervantes で公開された<sup>11)</sup>。セルバンテス協会は例年この日に年鑑 *Anuario del Instituto Cervantes* の最新号を公開しているが、今年は公開日を 14日に遅らせて増補版スペイン語訳のネット一般公開を優先させたことになり、同協会が時代とともに変化を遂げる CEFR の動きに追随する姿勢が窺える。個人的見解であるが増補版スペイン語訳も公開されたことで今後の ELE 教材新刊にも増補版の内容の何かが反映されるのではないかと期待がある。

上記 3 冊のテキストに話を戻すと、これらはいずれもスペイン語圏全域を題材として意識的に取り上げていて、汎イスパニア主義とスペイン語の言語バリエーションの両方への目配りが随所に察知できる。また、*Aula Internacional Plus 1* の巻頭説明ページには…“ofrecer una visión moderna y no estereotipada de España y de los países de habla hispana,”…のような記述があ

る。この表現に象徴されるように、最近のスペインの ELE 教材ではスペイン語圏全域を取り上げるのは当然で、かつ一般にあまり知られてなきそのようなスペイン語圏の社会文化知識がそれに関わる表現と共に取り上げられていることも稀ではない。テキストでステレオタイプを取り上げることは必ずしも不可ではないという意見もあるが、社会や文化の多様性により重きを置くとステレオタイプの導入はむしろ避けるのが現代に望まれる語学教育であると言えよう。

### 2.3. RAE と *Frecuencias* (Editorial Edinumen, 2020)

2.2. で取り上げた ELE テキストのうち、Edinumen 社が2020年に刊行した *Frecuencias* は ELE 教材として初めて RAE のコーパス (CORPES XXI, CREA) を活用した。2021年10月現在、CEFR の A1, A2, B1 の計 3 レベルのテキスト・練習問題・教授用資料が刊行されている。テキストの冒頭に掲載された同書の特長説明や編集方針は「21世紀のためのコミュニケーションなスペイン語」という同書のサブタイトルが示すように新時代の言語教育が目指すべき方向を提示している。すなわち、例文・タスク・練習問題などには可能な限り学習者のニーズに沿った、現実に使われている表現や例を用いる。近年スペインで刊行されている ELE 教材ではもはや当然のことであるが CEFR や *Plan Curricular* を参照し、その結果として他者とのコミュニケーションを通じて目前の課題を自律的に解決する学習者の育成を意図している。そして、同書のこのような教育方針を支えるのが RAE の言語コーパスである。同書の校閲には RAE が協力していて、現時点で他に類を見ない ELE テキストである<sup>12)</sup>。

筆者が「汎用スペイン語」に関心を持ちその教育的活用を最終目標とした研究を始めた2018年には同書はまだ存在しなかった。しかし、2020年に刊行された同書は RAE の言語コーパス活用を初めてアピールポイントとした ELE テキストであり、それゆえに同書の内容が RAE も関心を持つ「汎用スペイン語」の教育的活用に必要なヒントを与えてくれる可能性があるかと筆者は考えた。そこで本務校での担当科目の一つでスペイン語圏専攻1年生対象科目である「グローバルスペイン語トレーニング I」の今年度教材として *Frecuencias* A1 の *Libro del alumno* を採用した。前期授業が終了した本稿執筆時点では同書を利用した活動が全体の半分しか進んでいないが、授業実践とは別に同書の構成や言語コーパスの活用の検証なども

筆者の研究にとって必要不可欠であると考えた。そこで、授業では使用していない他のレベル (A2と B1) の *Libro del estudiante* の内容も考察対象とした。また、A1レベルの同書をテキストとして使用した授業の所感 は別項目としてまとめた。

### 2.3.1. *Frecuencias A1, A2, B1*

筆者が持つ3冊の *Libro del estudiante* はすべて10ユニットで構成されていて、ユニットが始まる前に内容が同一の紹介が16ページ (INT3-INT18) ある。その紹介は、出版社からの挨拶・テキストの概要説明・構成・動画コンテンツ紹介・テキストのビジュアルガイド・目次・スペイン語圏の地図と関連するデータや図表の順で続き、最後に「なぜスペイン語を学ぶのか」と題された1ページには話者数や学習者数など世界ランキングに登場するスペイン語学習関連データと図表が登場する。今やELEテキストにはほぼ例外なくスペイン語圏の地図が掲載されているが、スペイン語圏関連のデータや図表をテキスト冒頭に掲載しているテキストは稀である。江澤 (2020) で日本の出版社が刊行するELEテキストでのイスマノアメリカの扱いを調査した際に、対象とした27冊のテキストのうち福森他 (2017) のみが *Lección 0* の設定のもと、世界と日本におけるスペイン語の立ち位置に言及していた。データであり細かい数字を出すとすぐに古い情報になってしまうのでテキストでこの種の情報を出すのは難しいところもあるかもしれないが、日本のELE教育でもテキストの冒頭で日本とスペイン語圏の関係を表すのにデータを使うというアイデアは悪くないと思う。*Frecuencias* の場合は世界の主要言語としてのスペイン語の立ち位置 (母語話者数、学習者数など) をあらかずデータや図表が掲載されている<sup>13)</sup>。

次に各ユニットで顕著な特徴について述べる。RAEの言語コーパスを参照した成果の多くはテキスト各ページの随所に「戦略的に配置された」<sup>14)</sup>ミニコラムによって容易に参照できる。ボックスは内容別に付けられているタグが異なる。RAEのコーパスを情報源としているものはRAEと書かれたオレンジ色のリボン付で内容別に5種類のタグ (LÉXICO, GRAMÁTICA, COMUNICACIÓN, CULTURA, ORTOGRAFÍA) がついている。加えてCREAからデータ引用された作品があり、これにはタグなしでオレンジリボンだけがある。すなわちこのテキストにおけるRAEのコーパスには6つの下位区分がある。以下にそれぞれの例をあげる。

LÉXICO…アメリカスペイン語でスペインのスペイン語とは異なる読み方を持つアルファベット (b, v, w, y)<sup>15)</sup>

GRAMÁTICA…アルゼンチンやその周辺国の vos の使用<sup>16)</sup>

COMUNICACIÓN…地域によってよく使われる表現が異なる計画の提案・示唆をする時にアルゼンチンでは tener ganas de…を使うがメキシコでは gustar をよく使う、など<sup>17)</sup>

ORTOGRAFÍA…video と vídeo<sup>18)</sup>

CULTURA…アルゼンチンのスペイン移民の出身地で多いのはガリシアなので、アルゼンチン人は当地のスペイン人を gallegos と呼ぶ<sup>19)</sup>

CREA より引用…La Vanguardia 紙の記事 “De Londres a Glòries, vía Ibiza”<sup>20)</sup>

A1からB1の3冊のテキストに見られるコラムの数を種類別に分類したところ、その内訳は以下の通りとなった<sup>21)</sup>。

表 *Frecuencias* で提示されたRAEのコーパス活用の分野別コラム数

	A1	A2	B1	計
LÉXICO	33	18	8	59
GRAMÁTICA	7	5	10	22
COMUNICACIÓN	1	1	3	5
ORTOGRAFÍA	1	0	2	3
CULTURA	0	1	0	1
CREA より引用	0	0	3	3
計	42	25	26	93

A1, A2, B1の3レベルのテキストにあるRAEのコラムは合計で93を数え、その内訳はLÉXICO 59、GRAMÁTICA 22、COMUNICACIÓN 5、ORTOGRAFÍA 3、CULTURA 1、CREAからの引用<sup>22)</sup> 3である。数字から判断するとRAEのコーパスは概ね*Frecuencias*の語彙面と文法面のコンテンツ充実に貢献していることになる。またテキスト別分類の内訳は上記の表が示す通りである。従来語彙のバリエーションは中級レベルで学ぶ項目と考えられているが、*Frecuencias*では語彙のコラム数はテキストのレベルが上がるほど減っている。入門レベルで語彙のバリエーションを積極的に補足情報として提示しているのがこのテキストの特徴と言える。

文法22例のうち *voseo* に関する記述が8例あった。周知のように *voseo* の動詞活用は独特の形態を持つ。*voseo* は常にコラムの中でのみ紹介されていて、この形態がスペイン語文法の中ではマイナーであることを示唆しているが、A1からB1のすべてのレベルのテキストでの *voseo* への言及は、*Frecuencias* がマイナー用法ながらも *voseo* に注意を払い続けているという姿勢の表明と解釈できるだろうか。

文章コーパスからの引用はB1レベルのみであるが教育的観点からこれは理解できる。入門レベルでいわゆる生教材の作品を導入するのは時期尚早と思われるからである。

*Frecuencias* には以上のようなRAEのコーパス活用コラムに加えて、*Fíjate* や *Recuerda* という注意喚起の見出しつきのミニコラムも随所に出てくる。これらは各ユニットでの重要事項に対する補足説明で、必ずしも汎イスパニア主義や言語バリエーションとは関係がないので数量的な分類調査はしていないが、語学的な知識への喚起にとどまらず、円滑なコミュニケーション活動の遂行に役立つような示唆(例えば、スペイン語では相手が話していることに反応を返す必要がある。反応を返さないと相手の話に関心がないと解釈されてしまう<sup>23)</sup>)や学習のこつについてのアドバイス(例えば、イラストや画像を見ると文章理解に役立つ<sup>24)</sup>)などもコラム化によって補足説明の形で示される。

さらに、これはスペインの他社のELEテキストにも見られる特長であるが、タスクの活動形態として「ペア」「小人数グループ」「クラス全員」の3種類が指定されていて、さらに活動をより効果的にするためのヒントも提示されている<sup>25)</sup>。

## 2.3.2. 授業の所感

2.3.1. のテキストの内容検証に続いて、1年生対象の前週週1回の授業で使用した所感を箇条書きでまとめた。以下の通りである。

### 〈肯定的に評価できる点〉

- ・コーパス活用の一環として地域バリエーションがミニコラムとして時折掲載されるがこれはスペイン語が世界の多くの国で使える言語であることを入門レベル段階から学習者に「刷り込む」のに適している。
- ・スペイン中心ではなくスペイン語圏全体の社会文化知識を習得し、他者

と交流し共に活動して課題を解決するための言語習得を目指す、そのような学習者育成のための ELE テキストとしては、スペインの他社のテキストと同様に思える。

- ・入門レベルを修了した学習者用の復習教材として活用が期待できる。
- ・次項で言及する Enclave RAE と組み合わせることで言語コーパスの教育的活用の可能性が広がる。
- ・教師自身もよく知らない語彙や言い回し、社会文化知識が登場することにより教師も初習学習者の心理状態を体感できる。

### 〈やや懐疑的に見ている点〉

・RAE の言語コーパスを活用し、ミニコラムにまとめられたデータの中には興味深いものもあったが、筆者にとって既知のものがほとんどであった。(特に語彙についてそのような感想を持った。ただし、A1-B1 レベルのテキストなので当然のことかもしれない) 文法や意味論レベルでのコラムの扱いがもう少しあればよいと思った。

・Recuerda：で指摘される言語学習のコツは、外国語が得意な学習者にとってそのアドバイス内容に特に目新しさが無い。教室で時に教師がその内容の事柄を注意すれば十分であると思えた。すなわち、わざわざテキストに掲載する必然性をあまり感じなかった。

・このテキストの発行年は CEFR 増補版登場の 2 年後であるため、増補版の内容の反映がどこかに見られるか期待して探してみたが、現時点では把握できていない。

・Edinumen 社は ELEteca という優れた教育プラットフォームを運営している。Frecuencias の画像・動画コンテンツもスペイン語圏全域への目配りを感じたが、ELEteca のマニュアルが不十分で、かつ学習 1 年目前期の授業で筆者自身の力不足もあったと思うが、コンテンツの利点を授業で十分に生かし切れなかった。

通年授業の半期終了時点での講評であるが、このテキストがアピールする RAE のコーパス活用のうち用例が多い語彙バリエーションのコラムでの提示についてはどちらかと言えば利用のしにくさを感じた。例えば、第 1 ユニットで職業を述べる表現を学習する際に、タスクではカフェテリアで働く人を camarero/a で表し、コラムでは「スペインのスペイン語では

camarero/a でアメリカスペイン語では mesero/a, mozo/a を使う」と紹介されている<sup>26)</sup>。語彙の多様性は興味深いのが、日本でスペイン語学習を始めたばかりの学生にこの知識を教える必要があるのか疑問に思う。それで筆者の授業でも RAE のタグが入ったミニコラムは参考程度の情報と述べるにとどまった。小テストや期末試験の範囲からも除外した。

しかし、RAE の語彙情報は必ずしも必要度の低いものばかりではなく、例えば旅行がテーマである Unidad 3 で公共交通機関の語彙を導入したが、その際に RAE のコラムでは公共交通機関に関係して最もよく使われる形容詞として ecológico, rápido, lento, caro, peligroso, cansado, práctico, seguro, cómodo, económico, puntual, contaminante, barato が紹介された<sup>27)</sup>。過去に筆者がスペインの他の ELE テキストを採用した際、上記の形容詞の多くがそのテキストでも公共交通機関の語彙とともに登場した。この種の語彙の情報提供は有益なものに思えたので、入門レベルでの RAE のコーパス活用は必ずしも時期尚早とは言いきれない。

RAE のコーパスと ELE テキストの連携という *Frecuencias* の試みは新しいものであり、筆者自身も初めて使用するがゆえにまだその真価に気づかないままである可能性もあるし、先に列挙した感想も的外れな部分があるかもしれない。しかし、半年間テキストとして使用して、*Frecuencias* はスペイン語圏全域を意識したテキストとしては悪くないというのが全般的な感想である。一部のコラムのように設置する必然性が必ずしも理解できないところもある。しかし、同書がスペインのテキスト会社が刊行したテキストであることを考慮すると、スペイン以外のスペイン語圏諸国の社会や文化、言語の多様性に十分配慮がされていることに気づかされる。

その例をひとつ紹介する。Unidad 1 にアルファベットの聴解問題が出てくる。音声教材は単にアルファベットを流すのではなく、スペイン語を学ぶ語学学校が舞台となり出身国が異なる外国人学生が名前の綴りを述べ、それを聞き取るというスタイルの問題になっている。その語学学校の教師はプエルトリコ人で、生徒がうまく発音できると ¡Chévere! と褒め言葉を叫ぶ。通常想定されるのはスペイン人教師が登場して ¡Muy bien! という場面であるが、イスマノアメリカでスペイン語を学べばこういう体験ができるはずで、これ以外にも同書の利用はスペイン語教授経験も長くなった筆者にとって新鮮に感じた点があったことを特に付記しておきたい。

### 3. Enclave RAE

Enclave RAE (<https://enclave.rae.es/>) は RAE の豊富なリソースがオンラインで利用できるプラットフォームである。年間使用料が30ユーロの有料サービスで、7日間の無料試用期間が設定されている。ユーザーとして見込んでいるのは個人の学習者、仕事上のスペイン語利用者、そして教育関係者である<sup>28)</sup>。RAE はインターネットが全世界に普及した1990年代に早くも web サイトを開設し、言語コーパスや辞書などのオンライン化を積極的に推進して現在に至る。そのリソースはネット接続環境さえあれば誰でも無料で利用可能なので、有料のサイトは当然のことながら無料のサイト以上の付加価値が期待される。筆者が試用期間を経てこの Enclave RAE のユーザーとして登録した理由は、登録者となることでこのプラットフォーム内にある RAE の豊富な言語コーパスやその他のリソースが利用可能になるだけにとどまらず、それらを ELE 教育、特に教室での具体的な活動のために活用しうる有用な教育的ツールの提供の恩恵にあずかることができると判断したからである。

以下、3.1. にてまず Enclave RAE のコンテンツの概要を紹介する。そして3.2. ではそれらのコンテンツの中でリソースの教育的活用に関わるツールに注目し、教育プラットフォームとしての Enclave RAE の可能性を追求する。

#### 3.1. 概要

Enclave RAE は以下の10のツールから構成される<sup>29)</sup>。

- |                           |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| 1) Ficha de la palabra    | 2) Diccionario avanzado  |
| 3) Diccionarios           | 4) Gramática             |
| 5) Corpus avanzado        | 6) Registro de consultas |
| 7) Aula                   | 8) Taller lingüístico    |
| 9) Consultas lingüísticas | 10) Mi RAE               |

全体の詳細な紹介は本稿の趣旨から外れるので、以下の各ツールの概要説明は比較的簡潔にとどめることを予めお断りしておく。上述のように教育に直接関わるツールのみ3.2. で引き続き取り上げる。

- 1) ではある単語について複数の条件での詳細な検索ができる。
- 2) は Diccionario de la Lengua Española (以後 DLE と略記) を使って複

数の条件での絞り込み検索ができる。

3) では DLE も含め RAE の 6 つの辞書 (*DEL, Diccionario del estudiante, Diccionario Panhispánico de Dudas, Diccionario Esencial, Diccionario Jurídico, Diccionario de Americanismos*) を使った検索が可能である。無料サイトでは検索できない辞書の検索もできるのがユーザーのメリットである。

4) では RAE の *Gramática* の文法用語や用例を調べることができる。

5) では RAE のコーパスを利用して文章の特徴 (どんな国や地域でよく使われるか、文章のジャンル、テーマ、地域など) を調べることができる。

6) では DLE 電子版で検索された語やその情報 (国別や検索の時期) を知ることができる。

7) は文法もしくは正書法の特定のテーマについての DLE や RAE の正書法での該当個所のテキストや文学作品のテキストが置かれている。

8) は文章チェックや修正のために活用できる。

9) は RAE の *Español al Día* での正書法・語彙・文法に関連した質問とその回答のデータベースの検索ができる。ここから質問を送付することもできる。

そして 10) は 7) の中からリソースを選んでカスタマイズできるパーソナルスペースである。

以上のように、Enclave RAE は言語コーパスのみならず電子化された RAE の刊行物などのデータベースのフル活用が可能なツールで構成された、スケールの大きいプラットフォームである。これらのツールの中で 7)、8)、10) は本稿が主に関心を寄せる RAE のリソースの教育的活用に関わるものである。続く 3.2. でこれらのツールの利用可能性についてさらに考察する。

## 3.2. 教育的活用

7) Aula には 2021 年 10 月現在 36 のリソースが置かれている。各リソースにつけられたタイトルは RAE の *Gramática* と *Ortografía* 所収の項目名である。各リソースはタイトルと共に分野を示すメインのタグがついている。タグ表示の内訳は、*sintaxis* 14, *ortografía* 11, *morfología* 1, *obras* 6, *sintaxis/ortografía* の両分野 4 である。各リソースにはその他のタグもついている。

Uso de las letras というタイトルのリソースを例として説明すると、このリソースのメインのタグは *Ortografía* であるが、その他に *Grafías*, *Pronunciación* のタグ表示もある。このリソースはテキスト・用例・練習問題・まとめの四構成である。すなわち *Uso de las letras* に関わる RAE の刊行物から抜粋された説明文があり、さらに用例だけを抽出し、該当テーマについての理解度を測る練習問題があり、最後にテーマについて復習できる。このように各リソースが *Gramática* と *Ortografía* に関連する電子教材の役割を果たしている。また、《*El Quijote en la Historia de la lengua española*》José Manuel Blecua というタイトルのリソースはメインタグが *Obras* で、その他 *literarias, estudios, ensayos* のタグ表示もある。*Obras* の場合はオリジナルの文章が表示されるだけで、用例や練習問題は別途用意されていないが、作品がデジタル表示されているので授業での活用が可能となる。

8) は文章チェッカーであり、スペイン語の文章を入力して、文法や語彙、正書法、文体などの点で何か誤りがあるとその点が指摘される。また類語検索、構文の分析、動詞の活用なども調べることができる。このツールは作文の添削支援に利用できる。

そして10) はユーザー専用のパーソナルスペースで、*Mi Taquilla, Mi Libro* というフォルダが設置されている。ここではリソースの保存だけでなくそれに関連する他のコンテンツも加えてオリジナル教材を作成することも可能である。筆者はまだ *Mi Libro* の作成を試みていないが、このような教材作成までできるという *Enclave ELE* の機能の充実に驚くばかりである。

以上が *Enclave RAE* の教育関係ツール7)、8)、10) の概要であるが、RAE の言語データベースとオンラインの利点を十分に生かした設計により、*ELE* 教育支援用のプラットフォームとして期待しうる有用性は筆者の予想を上回るものであった。7) の練習問題の設定はあたかも RAE による *Gramática* と *Ortografía* のワークブックを想定させ、8) については現時点でその精度が必ずしも十分に判断できていない点もあるためさらなる検証が必要であるが<sup>30)</sup>、現段階ではスペイン語に特化しているわけではないオンラインでの文章チェックよりは信頼できるかもしれないとの印象を持っている。ただし、あくまでも一個人の感想であることはお断りしておく。そして10) については有料サービスだからこそとも言えるかもし

れないが、個々のユーザーのカスタマイズまで想定されている点には感服するばかりである。同時に10)の機能を十二分に享受するには教材作成者としての教師自身のセンスも同時に問われるところである。

#### 4. まとめに代えて

筆者は「汎用スペイン語」の研究を通じて、RAEやASALEの言語や文化の多様性を重視しながらの汎用スペイン主義やそのポリシーに影響を受け、今世紀に入って日々変化していくELE教育界やそこから生み出されるものをここ数年間研究の対象としてきた。そして、「汎用スペイン語」を真っ正面から共通スペイン語のような存在としてその実態を捉えるのはほぼ困難であることがすぐに判明したが、言語バリエーションは間違いなく存在するもののスペイン語圏のどこに行っても(あるいはスペイン語圏外でさえ)それなりに相手と意思疎通が図れることも事実である。その共通部分を言語表現の出現の確率の高さと結びつけることにより多少なりともその正体が見つめるのではないかと考え始めたとき、この問題がインターネットの全世界的普及と同時に発達を遂げた言語コーパス研究と関連を持つことに気づいた。

言語コーパス研究やコーパス自体の充実にとりわけ恩恵を受けたのは語学研究である。しかし、本稿で言及した*Frecuencias*の出版や有料プラットフォームであるEnclave RAEのサービスがユーザーに提供しうるものからも分かるように、スペイン語の言語コーパスは今後ELE教育でも広く活用される可能性を示唆している。教育分野の中でも辞書やテキストについては、RAEやASALE、その他の優れた言語コーパス研究の成果が反映されていることはすでに本稿で指摘した通りである。しかし、教室活動については依然として言語コーパス研究の活用が必ずしも十分におこなわれているとは言えないかもしれない。その意味でEnclave RAEのツールの中で教育的活用に関わるものは有用であるが、内容が文法や正書法にやや偏っているところもあり、コンテンツの今後の一層の充実が望まれる。

近年のスペインのELE教育でも言語コーパスの教育活用が注目されていて、Elvira-García (2021)のように教室活動におけるコーパス利用などに関する具体的な示唆に富んだ研究も出ているが、教室現場での言語コーパスの活用はまだ発展の余地があると思われる。そして、日本のELE教

育の場での応用の可能性については、日本という教育環境も考慮するとさらなる考察や検証が必要になる。いずれにしても ELE 教育における言語コーパスの活用は今後より重要性を持つ課題となることは間違いないと思われる。

## 注

- 1) RAE の『正書法』2010年版が1999年版に比スペイン語圏各国からのデータを大幅に増加させたのは周知の事実であるが、ASALE の web ページ内コンテンツ “Política panhispánica” は、両者の連携関係が1999年版の刊行時以降であることを明らかにしている。
- 2) CORPES XXI については以下を参照。  
<https://www.rae.es/banco-de-datos/corpes-xxi>
- 3) CDH (=el Corpus del Diccionario histórico de la lengua española) については以下を参照。<https://www.rae.es/banco-de-datos/cdh>
- 4) <https://www.rae.es/banco-de-datos> を参照。
- 5) 参考 web サイトを参照。
- 6) <http://www.mundoalfal.org/sites/default/files/proyectos/Varilex.pdf>
- 7) 参考 web サイトを参照。
- 8) Takagaki, Ueda y Ruiz Tinoco (2020) を参照。同誌についての高垣氏のご教示に感謝します。
- 9) Council of Europe (2018) を参照。
- 10) Corpas *et al.* (2020: 2) を参照。
- 11) Council of Europe (2021) を参照。
- 12) Equipo Frecuencias (2020a: INT3-5) を参照。
- 13) セルバンテス協会の年鑑 *Anuario del Instituto Cervantes* は毎年10月にその年の最新のデータをネットで公表しているのので、スペイン語の話者数や学習者数などについての最新情報を入手することができる。
- 14) Equipo Frecuencias (2020a: INT4) を参照。
- 15) Equipo Frecuencias (2020a: 4) を参照。
- 16) Equipo Frecuencias (2020a: 62) を参照。
- 17) Equipo Frecuencias (2020a: 119) を参照。
- 18) Equipo Frecuencias (2020c: 24) を参照。
- 19) Equipo Frecuencias (2020b: 104) を参照。
- 20) Equipo Frecuencias (2020c: 74) を参照。
- 21) 説明が重複しているコラムがいくつかあったが、これらのコラムが補足している個所が異なるため数字上は別のものとして計算した。

- 22) この章ですでに述べたように、この種のコラムにスペイン語名のタグはついていないので分類の便宜上「CREA からの引用」という名称をつけておく。
- 23) Equipo Frecuencias (2020b: 85) のコラム *Recuerda* を参照。
- 24) Equipo Frecuencias (2020a: 50) のコラム *Recuerda* を参照。
- 25) 「指定」と書いたがもちろん推奨例であり、実際の活動形態については現場の教師の判断に委ねられるのは言うまでもない。筆者はこのテキストを使った授業を長年担当し、スペインの ELE テキストを使い続けているが、日本の教室環境に合わない場合は自分の判断でテキストに示唆されている活動内容を変えたり、省略したりしている。そして今年度はコロナ禍の対面授業でペアワークや少人数グループでの活動が事実上できず、テキストの活用については必ずしも十分できていないのが今年度前期一番の反省点である。
- 26) Equipo Frecuencias (2020a: 7) を参照。
- 27) Equipo Frecuencias (2020a: 45) を参照。
- 28) Enclave RAE 内の以下のアドレスを参照。  
<https://enclave.rae.es/quienes-somos/quien-va-dirigido>  
なお、RAE がこのサービスを開始したのは2018年4月18日であるが、ツールの一部は試行版であったようで、また本稿で紹介するツールにもちに加えられたものがあるようだ。そして2021年になるまでその存在を知らなかった筆者の不明は恥ずべきものであるが、当時マスコミ発表の記録はあるものの、それ以後現在までのこのプラットフォームの知名度その他の情報については不明のことが多い。  
*Frecuencias* は2020年に刊行したが、出版元の Edinumen 社が自社テキストと関連付けて Enclave RAE の活用をテーマに掲げたウェビナーを開催したのは2021年5月である。SNS での情報発信も積極的におこなわれているように思えず（少なくとも見つけにくい）、現時点では PR が十分でないという印象を受けている。プラットフォームが正式に公開されたあとのコンテンツの改変などについて正確な情報を得ていないので、本稿での紹介は2021年10月に観察可能なコンテンツに限定している。
- 29) 10個のツールの他、ブログもあり、主として語の解説がおこなわれている。  
<https://enclave.rae.es/noticias> を参照。
- 30) 筆者の個人的な試みとして、意図的に性数変化を間違えた短文を書いてチェックをかけてもエラーが指摘されないことが何度かあった。使い物にならないという感想は持っていないが、近年急速に性能が上がってきた翻訳サイトと同様に、出てきた結果を必ずしも鵜呑みにしなければある程度役に立つというのが現時点での個人的感想である。

(本研究は JSPS 科研費 JP18K00786 の助成を受けたものです)

### 参考文献・web サイト

- Corpas, Jaime, Eva García y Agustín Garmendia (2020) *Aula Internacional plus 1*, Libro del alumno, Difusión.
- Council of Europe (2001) *Common european framework of reference for languages: learning, teaching, assessment*.  
<https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages/>
- (2018) *Common European framework of reference for learning, teaching, assessment. Companion Volume with new descriptors*.  
<https://rm.coe.int/cefr-companion-volume-with-new-descriptors-2018/1680787989>
- (2021) *Marco Común Europeo de Referencia para las lenguas: aprendizaje, enseñanza y evaluación. Volumen complementario*.  
[https://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca\\_ele/marco\\_complementario/default.htm](https://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca_ele/marco_complementario/default.htm)
- Elvira-García, Wendy (2021) *Uso de corpus en clase de ele. La lengua real como modelo*, Difusión.
- Equipo Frecuencias (2020a) *Frecuencias A1*, Libro del estudiante, Editorial Edinumen.
- (2020b) *Frecuencias A2*, Libro del estudiante, Editorial Edinumen.
- (2020c) *Frecuencias B1*, Libro del estudiante, Editorial Edinumen.
- 江澤照美 (2019) 「ELE 教育における「汎用スペイン語」」『愛知県立大学外国語学部紀要 (言語・文学編)』51号、183-194.
- (2020) 「スペイン語における汎イスパニア主義と多様性—「汎用 スペイン語」研究のための考察」『愛知県立大学外国語学部紀要 (言語・文学編)』52号、117-137.
- (2021) 「「汎用スペイン語」を追い求めて」『愛知県立大学外国語学部紀要 (言語・文学編)』53号、75-92.
- 福森雅史他 (2017) 『グラマニョール 文法中心スペイン語総合学習教本』朝日出版社
- GIDE (2012) *Cuestionario sobre análisis de necesidades aplicado a los alumnos universitarios japoneses en español*, GIDE.  
<http://gide.curhost.com/>
- Instituto Cervantes (2006-2007) *Plan Curricular del Instituto Cervantes Niveles de referencia para el español*, 3 tomos, Biblioteca Nueva.  
[https://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca\\_ele/plan\\_curricular/default.htm](https://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca_ele/plan_curricular/default.htm)
- 久住真由, ラマドリッド クルス、マルセラ (2015) 『アングレ!』同学社
- Takagaki, T., Ueda, H. y Ruiz Tinoco, A. (2020) “Variación gramatical del español en el mundo (VARIGRAMA): una visión panorámica de los rasgos sintácticos del

español” en *Verba, Anexo 80: Dialectología digital del español*, Universidad de Santiago de Compostela, 159–187.

[https://www.usc.gal/libros/index.php?id\\_product=974&controller=product](https://www.usc.gal/libros/index.php?id_product=974&controller=product)

上田博人編著 (2020) 『研究社 レクシコ新標準スペイン語辞典』 研究社

Asociación de Academias de la Lengua Española (=ASALE)

<https://www.asale.org/>

Corpus de Español (作成者 Mark Davies)

<https://www.corpusdelespanol.org/xs.asp>

Cruz Piñol, Mar (2019) *Los corpus de nativos como recurso para aprender español dentro y fuera del aula*, シンポジウム 大学の総合力を活かした外国語教育スキルと教養、2019年3月20日、於 京都大学

<https://sites.google.com/view/corpus-ele-univ-jap-2019/>

Enclave RAE (Banco de datos en línea) <https://enclave.rae.es/>

Real Academia Española (=RAE) <http://rae.es/>

レクシコ・専用データ検索システム

<https://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/lyneal/lexico.htm>

VARILEX <https://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/varilex/>

## Aplicaciones pedagógicas de “El español panhispánico”

Terumi EZAWA

El objetivo de este trabajo es encontrar una forma de introducir en la enseñanza de “El español panhispánico” con el que los hablantes puedan entenderse independientemente de sus variaciones lingüísticas.

La investigación anterior ha demostrado que el trabajo de la RAE y la ASALE, con su política panhispánica, también es relevante para esta investigación. En particular, el corpus lingüístico producido por la colaboración de las dos organizaciones ha desarrollado los estudios de la Lingüística Hispánica, y en los últimos años también se ha promovido el uso educativo de este corpus.

En este estudio hemos verificado el primer material que utiliza el corpus lingüístico de la RAE como recurso de E/LE. También discutimos el potencial de uso en el aula de las herramientas pedagógicas de la plataforma de pago de la RAE, *Enclave RAE*. Tanto el material como esta plataforma que se mencionan en este ensayo se consideran muy útiles para el uso pedagógico de “El español panhispánico”. También se espera que se avance en el uso práctico del corpus lingüístico en la enseñanza de E/LE.